



メデイカルネットワーク

発行 東京女子医科大学東医療センター 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10
 電話 03-3810-1111 FAX03-3894-0282 <http://www.twmu.ac.jp/DNH/index.html>

2011

No.13

June

防災体制についての当院の対策



東京女子医科大学東医療センター
防火・防災委員会

委員長 松原正男

先日の地震ではセンターでも震度5強の揺れを受けました。幸い建物には軽微な被害のみでけが人もいませんでしたが、外来診療停止、災害対策本部設置と職員への炊き出しなどが行われました。これまで毎年の防災訓練で給水訓練やトリアージ訓練などを行ってきましたが、実際に帰宅困難者も出るような事態になるとやはり想定外のことが多々ありました。

この緊急事態に対し大塚院長が指導力を発揮され、直ちに管理当直を復活させたほか、毎日防災会議を開いて当直者の顔合わせと緊急時の役割確認、電力消費量や水質検査結果の確認などを行っています。防火・防災委員会は災害時マニュアルについて指揮系統の明確化を含め、より実際的になるように各部署からの声を受け随時改訂しています。各病棟へのヘルメットや水運搬容器の配布、災害時必要物品のストック確保にも努め、患者さんや職員の安全確保を第一に考えて備えています。

しかしどんな時にも皆さんの冷静な行動と協力が第一です。よろしくお祈りします。

教授・臨床教授就任のご挨拶



外科

教授 成高義彦

この度、東医療センター外科教授に就任させて頂きました。専門は食道癌や食道静脈瘤を中心とした食道疾患に対する外科的および内視鏡的治療です。

食道癌に対する低侵襲な治療として、内視鏡的粘膜切除術や胸腔鏡、腹腔鏡を利用した手術を積極的に取り組んでいます。今後、城東や城北地域の基幹病院としてより質の高い医療を提供できるよう努力していく所存です。今後とも皆様方のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



外科

臨床教授 勝部隆男

このたび、外科臨床教授に就任させて頂きました。私の専門は胃癌ですが、この領域においても、根治性だけでなく、QOLを重視した治療が求められています。そこで、低侵襲治療を目指し、内視鏡治療や腹腔鏡手術を数多く手がけてきました。城東、城北地区における消化器外科の基幹病院として、患者さんにやさしい医療の提供に尽力していきたいと考えています。今後、皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

このたび、外科臨床教授に就任させて頂きました。私の専門は胃癌ですが、この領域においても、根治性だけでなく、QOLを重視した治療が求められています。そこで、低侵襲治療を目指し、内視鏡治療や腹腔鏡手術を数多く手がけてきました。城東、城北地区における消化器外科の基幹病院として、患者さんにやさしい医療の提供に尽力していきたいと考えています。今後、皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



麻酔科

臨床教授 小高光晴

4月より臨床教授を拝命いたしました。今まで麻酔科領域全般に携わってききましたが、特に心臓麻酔を専門としております。また、環境問題にも興味があり麻酔ガスを一切用いない静脈麻酔の臨床研究を行って参りました。最近では超音波診断・治療を麻酔科領域に応用することに専心しており、これら技術を医療安全や教育へと還元できればと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科 教授

須納瀬 弘



骨盤底機能再建診療部 教授

巴 ひかる



形成外科 教授

井砂 司

No.11・12号でご挨拶させて頂いておりますので今回は省略させていただきます。

外来化学療法室のご紹介



准講師 山口 健太郎

平成22年8月より、かねてから要望のあった外来化学療法室（リクライニングシート6床、ベッド2床）が稼動しております。当センターではできるだけ親しみやすい名前ということで「外来ケアルーム」と呼ぶこととしました。化学療法が必要な患者さんの増加、また化学療法を施行する場として外来が中心となりつつある昨今、当センターでも患者さんが平常の日常生活、社会生活を送りながら高品質な治療が受けられるようにすることを目的に、この外来ケアルームは設置されました。専門の医師、看護師、薬剤師を配置し、いままでそれぞれの科で行っていた化学療法を一ヶ所に集約して、患者さんが安全に、リラックスした状態で数時間にわたる点滴治療を受けることができるようになっています。現在は外科・乳腺科の症例を中心に、婦人科、呼吸器

外科、泌尿器科などが利用しており、関節リウマチやベーチェット病に対する薬物療法目的で整形外科、眼科などの利用もあります。

今後益々、この外来化学療法の必要性は増加していくと思われます。近隣の先生方におかれましても、外来化学療法が必要な患者さんでお困りのことなどありましたら担当科を通じて、いつでもお問い合わせいただければと思います。



新生児呼吸機能検査



新生児科

助教 鶴田 志緒

呼吸管理が大きな役割を占める新生児領域において、呼吸機能検査は児の肺の状態を直接評価する有力な診療ツールです。NICUの呼吸機能検査が他領域と異なるのは児の協力が得られない点であり、そのため、児の協力がなくても臨床に役立つ結果が得られるよう様々な工夫がされてきました。Hering-Breuer反射を利用して吸気末で気道を閉塞し肺の圧と容量を一定に保ったのち受動呼吸を得、気道抵抗、静肺コンプライアンスを解析するpassive flow-volume techniqueは新生児の標準的な検査法として定着しています。

当科ではさらに一歩進んだ呼吸機能検査として、呼

吸の予備力を定量的に評価する呼吸耐力検査（breathing intolerance index: BITI）や、二酸化炭素貯留に対する中枢性の換気応答を調べる炭酸ガス換気応答試験、酸素飽和度と心拍の連続記録解析による酸素化及び睡眠パターンの評価などを行っています。また、これらの検査で異常所見のあった児には、原因検索として喉頭気管気管支鏡検査を積極的に施行しています。

先進的な呼吸管理を行うことで、現在は全国から新生児の呼吸管理についての相談や患者さんのご紹介をいただくようになり、NICUの診療レベルが徐々に上がってきているところです。最先端の医療と地域周産期医療への貢献を両立させながら今後とも頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

卒後臨床研修をおえて



脳神経外科

医療練士研修生 黒井 康博

当院での卒後臨床研修2年間を終えて、本年4月より脳神経外科医局に入局させて頂きました黒井康博です。脳神経外科は本年多数の入局者があり、切磋琢磨しながら日々精進していく所存です。私は当センターでの臨床研修を経験させていただいたうえで継続して当院に勤めることになり、初期研修医、専門医双方の価値観を共存できる立場として微力ながらも救急外来をはじめとした病院機構の向上に貢献できれば何よりと思います。



耳鼻咽喉科

医療練士研修生 貞安 令

平成21年度より2年間当センターで初期臨床研修をさせて頂きました。当センターの魅力は大学病院でありながら地域住民の中核病院である特色から、専門分野に偏ることなく幅広い疾患分野を勉強できることであります。救急外来では研修医が最初に初期診察でき医者としての基礎を築け、研修科の選択も自由度が高く自分の将来を見据えた研修プログラムを作ることができました。研修を終え、初期研修施設として非常に魅力的だと考えます。

「内視鏡内科」を標榜しました



検査科 教授・副院長

加藤 博之

当センター検査科は、臨床検査部門と内視鏡部門である光学診療部を統括しております。“患者さんに分かりやすい標榜”をということで、昨年9月から「内視鏡内科」の標榜を追加しました。組織的には従来どおり光学診療部として診療をしておりますので、地域連携室を通じたご紹介もどちらの名称をお使いになられても結構です。

近年の内視鏡診断および治療の進歩に伴い、当センターでは拡大内視鏡、カプセル内視鏡、ジェット水流付き内視鏡等を導入し、診断と治療技術の向上に努めております。拡大内視鏡は100倍ズーム機能が付いた内視鏡であり、癌の早期発見や質的診断に役に立っております。カプセル内視鏡は26×11mmのカプセルを飲むだけで、小腸全体を観察することができます。また、機器や処置具を有効活用することで、消化管の早期癌や腫瘍、ポリープを安全で確実に治療することができます。

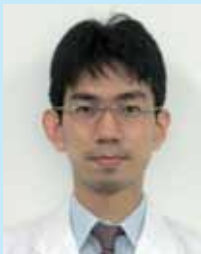
昨年、「内視鏡的大腸粘膜下層剥離術（ESD）」が先進医療として認可されました。大腸のESDは、根治

可能な2cm以上の早期癌や従来法で切除不能な1cm以上の腫瘍が適応となっております。当センターでは既に100例以上の経験を重ね、安全に実績を積んでおり、合併症による緊急手術例は皆無であります。全国登録を見ますとH23年4月現在、全国の先進的な56の医療施設で大腸ESDが実施されており、当センターは全国14位にランクされております。今後も安全で確実な内視鏡診療を推進していきたいと考えておりますので、宜しくお願い申し上げます。

早期大腸がんの内視鏡的大腸粘膜下層剥離術(ESD)



大動脈瘤に対するステントグラフト治療



心臓血管外科

助教 浅野 竜太

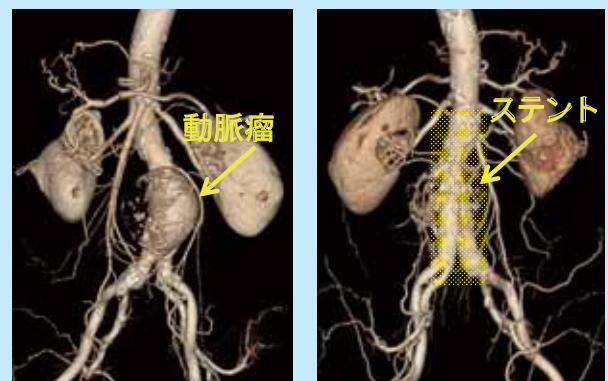
ステントグラフト治療は大動脈瘤に対する低侵襲治療として、本邦では腹部大動脈瘤に対して2007年1月、胸部大動脈瘤に対しては2008年7月に保険適応となり、全国的な手術件数は年々増加しています。当科でも2010年4月より胸部および腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療を開始しました。

従来の人工血管置換術と比較すると、カテーテルの技術を使用するので手術創が小さく体にかかる負担が少ないという利点があります。術後の回復が早く入院期間も短くて済みます。このことは大動脈瘤を抱える患者さんにとって非常に意義のあることです。ただし、動脈瘤のできた部位や形、動脈硬化の程度によってはステントグラフト治療が適応にならない場合もあ

ります。また併存症の有無など個々の患者さんの状態に合わせた最良の治療法を選択することが重要です。

日暮里クリニックと東医療センターにて血管専門外来を開設しておりますのでお気軽にご相談ください。

腹部大動脈瘤に対するステント治療



治療前

治療後

小児科救急外来（時間外・夜間・休日）からのお願い

当センターは救急告示病院として、東京都二次救急医療機関に指定されております。また、当センターの小児科病棟には重症度の高い患者さんが多く入院しています。従いまして、小児科救急外来では他医療機関より紹介状を持参された患者さん、救急車にて来院された患者さん、および当科かかりつけの患者さんを主に診療しております。上記以外でご来院される患者さんにつきましては、長い時間お待ち頂く場合があります。当地域の一次・二次救急医療体制の円滑な運営のために当センターの小児救急の位置づけについて、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

荒川区医師会 (<http://www.arakawa-med.or.jp>)、および足立区医師会 (<http://www.adachiku-med.or.jp>) による初期救急医療体制も、あわせてぜひご利用下さいます様、お願い申し上げます。



日暮里クリニックのご案内

顔面けいれん・三叉神経痛外来のご紹介



助教 谷 茂

昨年10月より日暮里クリニックにて顔面けいれん・三叉神経痛外来を始めさせていただくことになりました谷と申します。馴染みにくい名称で分かりにくいと思われるかもしれませんが、次のような症状の患者さんがいらしたら、気軽に紹介下さい。

三叉神経痛は、顔面の痛みで、発作的に起こり、激痛で耐え難いのが特徴です。通常は、左右のどちらか一方に起こり、冷たい風、食事、歯磨き、化粧等で顔に何らかの刺激があると痛みが誘発されます。また、痛みは特定の方向に向かって走り抜けるという特徴もあります。最初は、むし歯と思い、歯科を受診する方も多くいます。一般的には、薬による治療が第一選択です。

顔面けいれんは、眼の周囲や口元がびくびくと動くのが特徴です。直ぐに止めたい場合は、ボトックスを

局所注射すれば、症状は改善します。いずれも、神経を血管が圧迫して起こる病気です。

その他、舌咽神経痛がありますが、これは、舌から咽の痛みで、痛みは耳に走り抜けるのが特徴です。一番困るのは、嚥下ができないということです。

これらの病気を根本的に治療するには手術となります。その際は、女子医大東医療センターで行うことになります。ところが、三叉神経痛、舌咽神経痛に対しては薬物療法が第一です。顔面けいれんもボトックス治療は外来で十分対応できますので、当外来に、気軽にご紹介下さい。また、病態がよく分からず診断に苦慮するような症例でも構いません。例えば、頭痛と区別が付きにくいとか、顔面けいれんもジストニアといった難治性疾患と区別が付きにくい例もあります。

◇外来日 毎週 水曜日（午後）
ご予約は3805-7772までお願い致します。

至池袋 田端
至成田
至熊野前・見沼代親水公園
至上野
至池袋 田端

サンマークシティ日暮里
ステーションポートタワー4階5階

日暮里
NIPPORI CLINIC
入口

ステーション
プラザタワー

ポスト

ステーション
ガーデンタワー

北改札 → 東口
東口
JR 日暮里駅
京成電鉄 日暮里駅

バスターミナル

尾久橋通り

〒116-0013
東京都荒川区西日暮里2-20-1
ステーションポートタワー4階5階
☎03-3805-7771(代)

□JR日暮里駅からの道順
日暮里駅北改札を出てから、東口（右方向）に出てください。東口を出たら左方向に携帯電話販売店がありますので左脇の入口よりお入りいただき、エレベーターを利用して4階までお越しください。

□日暮里、舎人ライナーからの道順
JR日暮里駅方向の改札を出てからすぐ右側に階段とエレベーターがありますので2階まで降りてください。2階に降りましたら、左側にステーションポートタワー口の連絡橋があります。渡っていただくとビルの3階に出ますので階段、エレベーターをご利用いただき4階にお越しください。

《日暮里クリニックは予約制です》

- 予約電話受付時間
 - 平日 8:20~17:00
 - 土曜日 8:20~12:30
- 休診日
 - 日曜日・第3土曜日・祭日・振替休日、
 - 本学創立記念日12月5日（休日の場合は翌日）
 - 年末年始（12月30日~1月4日）

※予約専用電話 03-3805-7772
※5階美容医療専用 03-3805-7773
※予約専用電話にお願い致します

地域連携室からのお知らせ

第18回「城東地区医療連携フォーラム」

日時：平成23年7月2日（土） 午後3時より（予定）

場所：ホテルラングウッド

東京都荒川区東日暮里5-50-5

電話 03-3803-1234

お問い合わせ先 地域連携室 内線 6151 又は
業務管理課 内線 4433

編集後記

未曾有の被害をもたらした3月11日の東日本大震災以来、連日希望の槌音が響いております。眼に見えない「絆」で日本中がつながっていると感じます。日本人である事に誇りを持ち、自分の出来る支援を継続していきたいと心に誓っております。

（東日本大震災の影響で発行が1か月遅れました事をお詫び申し上げます）
次号は平成23年11月を予定しております。（地域連携室 堀）